



実践編：マイコン

1.バイヤーの心得、実践交渉術

【実践編：マイコン】

実践編第3弾はマイコン。

今や「どこまでがマイコン？」ということもあるので、ここでいうマイコンとは、4~16bitクラスのCPUにROM/RAM、ペリフェラルが入っているもの、という定義にしておきます。

現実的には、資材/購買部門がマイコンを選定する可能性はあまり高くないと思います。

しかし、私が考えるに

「部品選定に聖域はない」
と思っています。

汎用品の選定、全体の価格交渉やデリバリーだけを任されても、仕事としてはあまり面白くないでしょう。

やるのであれば、全カテゴリーに対して口を出す=一定の責任を持つことが重要です。

マイコンを採用する際、資材/購買が口を出すことに一番の障壁は

「過去資産の流用」

だと思っています。

今までに何年もかけて積み上げてきたことを、ほんの数円のために変えたくないし、その時間もリソースもない、と言われることが多いかと思います。

しかし、これは資材/購買から見れば「甘え」であることを認識させる必要があります。

まず、今までの資産にどれだけの価値があるのか？

そのせいで逆に反応スピードが遅くなったり、消費電力が高かったり、基板面積が大きくなってしまったりしているということはないでしょうか？
それらにかかるコストの積算はかなりの金額になってしまうはずです。

ほんの数円、果たしてそうでしょうか？

仮にマイコン自体は1円違っても、周辺部品を含めたら5円違う、機能を考えたら100円違う、、、そんな結果になる可能性もあります。

時間もリソースもない、それはエンジニアとしてプライドを捨てたのと同じ

「私には能力がありません」

とされているのと一緒にだと思えます（正面切ってそんなことを言うことは滅多にしません、たまたまにします）

要はイメージや雰囲気ではなく、お互いが数字でロジカルに説明し、理解を得る努力をすることが必要だと思うのです。

マイコンに求められるスペックは何か？

ざっと思いつく範囲でも以下のような項目が挙げられます。

- コア能力（何bit？動作周波数など）
- ROM、RAM容量
- 必要なペリフェラル
- I/O本数
- 電源電圧、消費電力
- パッケージサイズ
- 開発ツールサポート
- 価格（マスクチャージがある場合、それも含む）
- テープアウトしてからのリードタイム
- CR発振の必要性
- 市場実績
- 今後の拡張性

こんなところから決まってくると思えます。

資材/購買部門としては、これらをベースに各社に打診し、集まった回答を機械的にまとめる。

開発/設計部門は、それらに対して吟味する。

そして最終的に同じ条件であれば使いやすい方を選ぶなり、様々な理由から今回はこちらにする、などを協議の上で決定する、そんな流れを取ることが大事だと思えます。

一番ダメな例は

「今までこれを使ってきたから次もこれ」

だと思っています。

利益を生み出す半導体調達戦略-vol.26

<http://p.booklog.jp/book/28876>

著者 : hinoe_uma66

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hinoeuma66/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/28876>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/28876>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.